

在宅高度医療を受けている難病患者の災害対策に関する調査

ご協力ありがとうございました

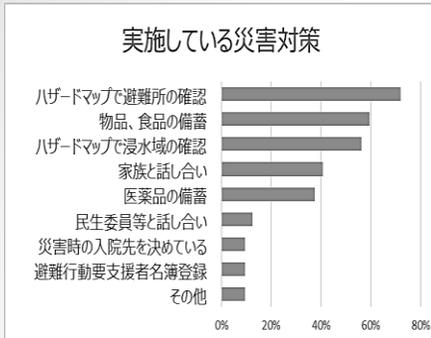
地震、台風、洪水などの自然災害は近年増加傾向にあり、災害への備えが大変重要になってきています。災害が起こると電気や水などのライフラインや物資の供給などが途絶え、医療機器を使用している難病患者さんたちにとっては生命の維持に関わります。寝屋川市保健所では、在宅高度医療を受けている難病患者さんたちの災害への備えと課題を明らかにし、自助力を高めることや、共助および公助のあり方を検討するために調査を実施しました。

在宅高度医療患者

寝屋川市内の特定医療費受給中の難病患者さんのうち、自宅で人工呼吸療法、酸素療法、吸引をしている人に「医療機器について」「災害対策をしているか」「避難所への避難について」「災害について不安なこと」「行政が取り組むべき災害対策」など、10項目についてアンケートを実施。（65名中53名回答：回答率 82%）
実施時期：令和2年11月～令和3年1月

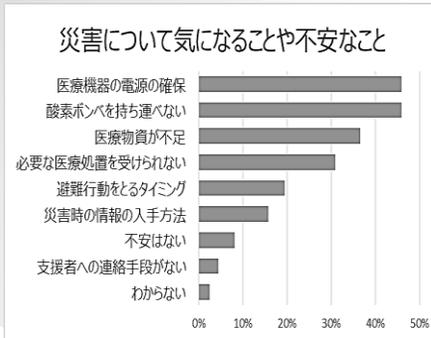
災害対策をしていますか？

「している」「しているが不十分」と答えた人は32名（約6割）。
「していない」の理由は「どのような対策が必要かわからない」が13名（6割）と、理由の中で一番多かった。



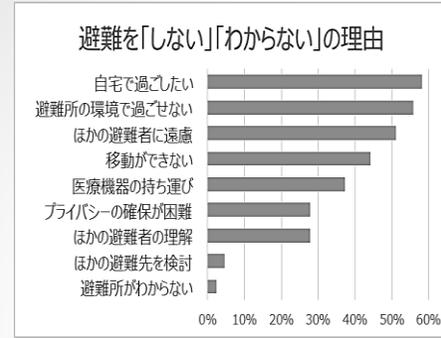
災害対策上の不安について

「医療機器の電源の確保」「医療物資の不足」など医療の供給に関する項目を上げている人が多かった。



避難所へ避難しますか？

「する」と答えた人は10名（約2割）。
「しない」「わからない」と答えた人の理由では、「自宅で過ごしたい」「避難所の環境で過ごせない」「他の避難者に遠慮する」「移動ができない」などの理由が多かった。



行政に取り組んでほしいこと

医療機器の電源や避難および避難所のことなど、6項目について必要と思う程度を尋ねた。
「必要」と答えた項目は「医療機器の電源に必要な物資の供給」「非常用電源の助成」「バッテリーや蓄電池が充電できる場所」で多く、それぞれ6割またはそれ以上の割合であった。
「やや必要」と答えたものまで含めると「移送サービスの整備」「専用の避難所の設置」で6～7割となった。

高度医療患者さんの災害時の避難計画や備えに関する支援、周囲の人や地域の人への啓発活動に取り組みます。
また、関係機関等へ皆さんの意見をお伝えし、連携・協力して災害対策が進められるよう取り組んでいきます。

医療機器業者

寝屋川市内で在宅高度医療を受けている患者に介入している医療機器業者にヒヤリング調査を実施。（7事業者のうち6事業者に実施）
実施時期：令和3年2月～3月

多くの業者が、患者さんや家族への安否確認や、酸素ボンベなど医療物資の供給等、事前にマニュアルを作って備えていました。



医療機器業者さんの取り組みを知ることができました。患者さんや家族の方におかれましては、業者さんの定期訪問時にぜひ災害対策について確認しておいてください。